高校神奈川

発行人　園部　守
編集人　阪本　宏児
横浜市西区藤棚町2の197
高校教育会館内
TEL　045(231)2479
FAX　045(231)2536
http://www.fujidana.com

県教委の手法こそ〝創造的破壊〟が必要！

県単独の研究指定校 半減へ

多忙化解消に向け、事業の見直しを求めよう

県教委は09年12月7日、「県立高校教育力向上推進事業」（以下、教育力向上事業）についての通知を発出しました。この通知は、07年度から3年間で延べ249校が該当し、学校多忙化の要因となっていた「学力向上推進および特色ある県立高校づくり推進事業」（以下、特色推進事業）を再編しようとするものです。

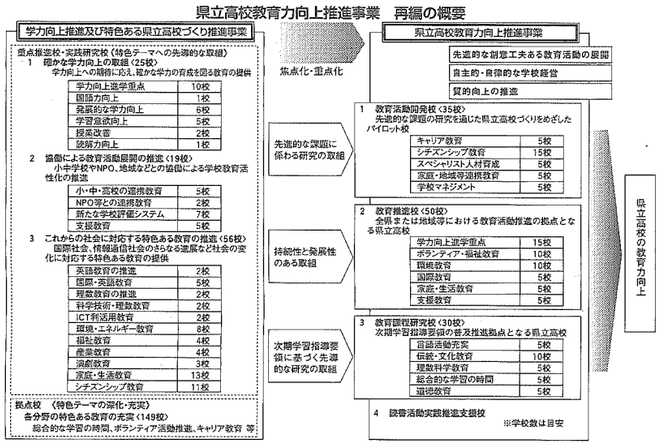
神高教は教育的効果が感じられず、学校に多忙化と徒労感だけをもたらす、一律一斉の教育事業・施策の廃止・見直しを県教委に求めてきました。その結果、09確定交渉において、当局から「学校現場の多忙化に対して、業務の分析を行い、子どもと向き合う時間を確保する視点に立ち、数値目標を設定するなど最大限の努力を行う」とする回答を引き出したことは既報の通りです。

県教委がこれまでの「特色推進事業」に代わり、研究指定校を110校に半減して「教育力向上事業」を打ち出してきた背景には、財政問題だけでなく、神高教のこの間のとりくみがあります。

しかし、新たな事業を起こすことで予算確保につなげるという、県教委の旧態依然とした発想・手法は何ら変わっていません。

中央では昨年「事業仕分け」が注目を集めました。また、09年10月に県が公表した「県庁改革基本方針」も、「県庁文化の創造的破壊も含めた組織・執行体制や仕事の進め方の改革を行う」などとしています。

自己改革にとりくむことも、これまでの事業の効果も検証することなく、同工異曲のムダな予算を「獲得」しては現場に押しつけ、多忙化の要因を生み出す県教委に対し、神高教は要求実現を求めていきます。



県教委が明らかにした事業の概要

「特色推進事業」に代わり、新たな「教育力向上事業」を開始

日教組　第1回青年教育実践交流会(TOMO-KEN)参加報告

ある青年教員の「日の丸」への向き合い方

平和教育の特別分科会（11月28日 東京・総評会館）

熊本県教組Mさんより。

「…なんだかんだで40分ぐらいこんな話を繰り返していた。かなりのパワーを要した。話し合いは相変わらず平行線をたどり、これからどうするというところまではいかなかったが、「日の丸、君が代を強制するのはおかしい」という校長の見解を引き出せただけでもよしとしようと自分に言い聞かせた。それ以来、校長ではなく教頭が言ってくるようになった。現在も、のらりくらりしながら、言われたら揚げる、言われなければ揚げないという生活を送っている…」。

東京で生まれ育った私は、当番制で生徒に毎日「日の丸」を揚げさせるという習慣に、不勉強ながら驚きました。そして、その習慣をおかしいと感じ、一人で行動し続ける若手がいることに驚き、感動しました。交流会で本人を捜し出し、話を聞いたところ、職場は、組合員3人だということ。

「日の丸」を生徒に揚げさせるのは耐えられないと思ったMさんは、まずその仕事の担当を拒否の自分にして、しばらく忘れたふりをしながら過ごしていたそうです。何か変だと気付いた管理職とのやり取りが上の抜き出し文です。

「でも、職場で浮いているわけじゃないんですよ」とMさん。核心的な問題にまっすぐ向き合っているのに、ぶつかるのでなく、かわしながら、でもしっかり主張している。

「日の丸・君が代」の問題は、そもそも個人の思想の自由を主張しているわけだから、「みんな不起立で団結しよう！」というわけにはいかない。でも、一人不起立で浮くのは怖いと、正直、来年の卒業式の自分のあり方を私は悩んでいました。Mさんに出会い、新しい道が見えた気がしました。私も私のやり方を探してみよう。目を背けず、向き合っていくために。

全国から約300人が参加

「今日は○○教組の××さんの誕生日です」と日教組青年部長の掛け声で、会場は〝緑の山河♪〟ではなく〝Happy birthday♪〟の大合唱が響のでした。和やかで全体会はとてもっていました。

全国教研の若手し的役割として今年から始まると聞いた「トモケン」。高年齢化が進む教これからを心配していたので、興味をもってのですが、過去3回の全国教研の平和教育分科会から受けたインパクトが強すぎたのか、30歳を過ぎてしまったせいなのか、若手パワーになじむことができずにいたのでした。

そんな私ですが、この「トモケン」で素晴らしいレポートに出会いました。

2・3面に第226回中央委員会議案（骨子）

日政連議員 なたにや正義に聞く 2

苦しかった3年間

那谷屋（以下N）　議員になって前半の3年間は、とにかく苦しい時代でした。右も左もわからない上、自民党300議席体制の中で、教育基本法は改悪されるは、免許更新制はつくられちゃうはで、本当にこの怒りをどこへ持っていっていいかわからない3年間でした。それが次の参議院議員選挙で、とにかく自公の多数体制を崩して「ねじれ国会」を作れたことで、少し展望が見えてきました。

園部（以下S）　総務委員会の理事になられたところですね。

N　ええ、ちょうど地方行革の嵐の中で、その矛先が現業職員の給与・定数問題に向かっていたときでした。

S　総務省が全国の自治体に現業職員の採用をやめろ、と指示したり、賃金センサスを使って現業職員の給与が高すぎるキャンペーンをはった時ですね。

現業職員問題にとりくむ

N　ええ、あの時は日教組の現業部長の具志堅さん（現神高教執行委員）に議員会館に何回も足を運んでもらって、委員会での質問を練りに練りました。

S　おかげで、学校現業職員は学校に必要な職員、賃金センサスでの比較はあくまで参考というような答弁を引き出していただきましたね。

N　学校現場にいたとき、私は義務制でしたので、現業職員の人は自治労ですし、正直言ってあまり身近な問題だと感じていなかったのですが、具志堅さんから高校現場の実態をうかがう中で、学校にはやはり現業職員の方の存在が欠かせないし、学校職員として誇りを持って働ける条件作りは重要だとつくづく感じました。

参院文教科学委員会

S　その後、やはり日教組出身の神本美恵子さんと一緒に文教科学委員会に移りましたね。

N　ええ、文教科学委員会では参院多数の状況を利用して、教員免許更新制の廃止法案や高校無償化法案、教員定数の拡充の法案などの参議院での可決を勝ち取りました。

S　あの段階では、衆議院では自公の圧倒的多数の中で、否決廃案になったわけですが、これらの法案の参議院での可決が、政権交代後の今の動きに結びついているわけですね。

N　現場の声や運動を政策に反映させる努力をしてきたことが、実を結んだ形になります。やはりこれまでの日教組の運動があって、政権交代をきっかけにそれが実現に向かっていることを実感しています。

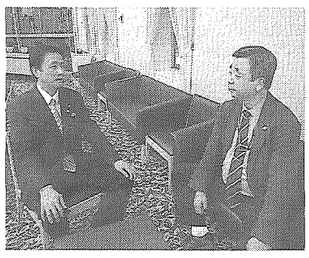
S　ついに政権交代が実現しました。これは「無血革命」

N　選挙すなわち国民の意思で戦後初めて政権交代を実現した、という点ではまさに無血革命ともいえる歴史的な出来事といえます。

S　補正予算の執行停止や事業仕分けなどが大きく報道され、なるほどこれが政権交代ということかと思わせるような変化が見えてきています。

N　そうですね。この大きな変化が、コンクリートから人へ、すなわち教育や福祉を大切にする社会の実現に向かうように、さらに頑張らなければならないと感じています。

※日政連とは…日本民主教育連盟。52年に発足した日教組の政治組織。現在衆参9人の議員が所属。


那谷屋議員（左）と園部委員長